

緑化木情報



第52回愛知県緑化樹木共進会 「農林水産大臣賞」 ユッカ・ロストラータ

目	次
県内の緑化木生産状況	 1
緑化工事における緑化木需要状況	 2
植木センター情報（市場調査）	 4
〃（調査研究）	 6
第52回愛知県緑化樹木共進会	 10

県内の緑化木生産状況

愛知県では、1970年（昭和45年）以来県内の緑化木生産状況を調査しています。
2024年実施の調査結果の概要は次のとおりです。

1 調査方法等

調査対象期間を2023年10月1日から2024年9月30日までとして、県内の緑化木生産者を対象に調査員による聞き取り等を実施しました。

2 生産面積（図－1）

2024年9月30日現在の緑化木の生産面積は14,449.8aで、対前年比7.0%の減少です。2015年度に比べ26,839.9a、65.0%減少しています。

種目別では常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。

3 生産本数（図－2）

2024年9月30日現在の緑化木の生産本数は6,664.2千本で、対前年比16.4%の減少です。2015年度に比べ14,865.2千本、69.0%の減少となっています。

種目別では常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。

4 出荷本数（図－3）

2023年10月1日から2024年9月30日までの緑化木の出荷本数は2,840.4千本で、対前年比14.0%の減少で、2015年度に比べ5,895.6千本、67.5%の減少となっています。

5 生産者数（表－1）

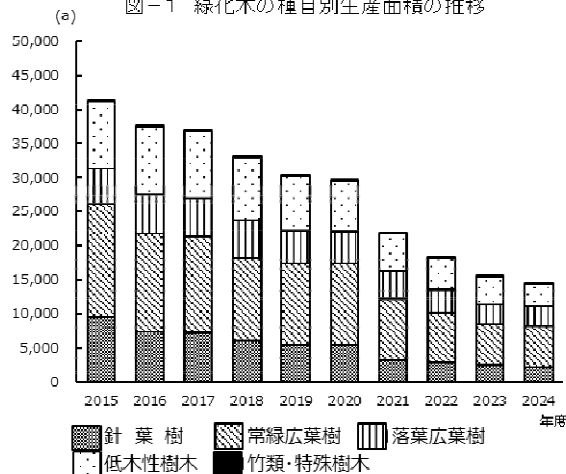
2024年9月30日現在の緑化木の生産者数は、842戸で、対前年比14.9%の減少、2015年度に比べ57.3%の減少です。

事業体別では農業生産者が98.0%を占めています。また、50a未満の生産者が84.9%を占めています。

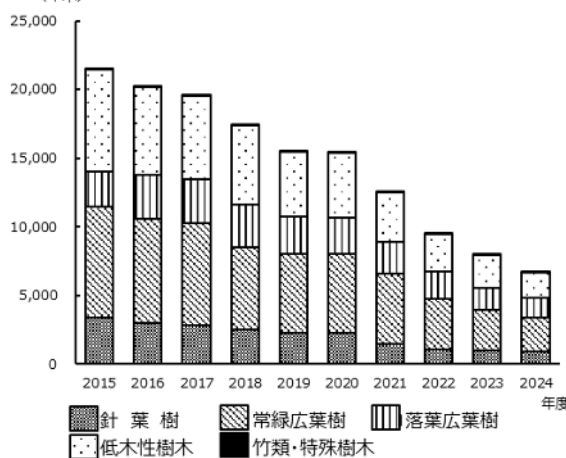
6 事業体別生産面積（表－1）

2024年9月30日現在、緑化木の生産面積の94.3%を農業生産者が占めています。

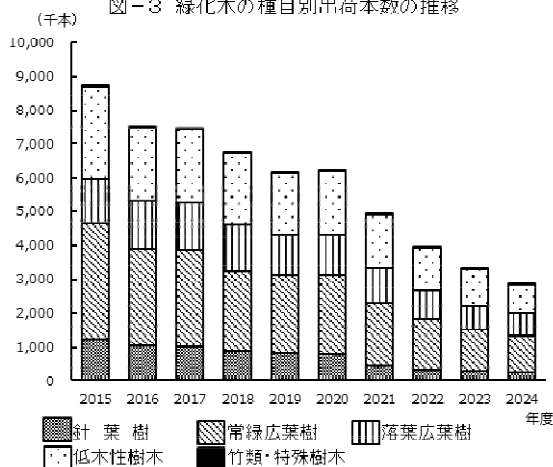
図－1 緑化木の種目別生産面積の推移



図－2 緑化木の種目別生産本数の推移



図－3 緑化木の種目別出荷本数の推移



表－1 緑化木の生産面積規模による事業体別調査結果

区 分 事 業 体		緑 化 木 の 生 産 面 積 規 模 に よ る 区 分										合 計	
		1 0 a未満		1 0 a以上 2 0 a未満		2 0 a以上 5 0 a未満		5 0 a以上 1 0 0 a未満		1 0 0 a以上			
		生産 者数	生 産 面 積	生産 者数	生 産 面 積	生産 者数	生 産 面 積	生産 者数	生 産 面 積	生産 者数	生 産 面 積	生産 者数	生 産 面 積
農業生産者		戸 337	a 670.1	戸 243	a 2,659.5	戸 123	a 2,867.2	戸 99	a 5,093.2	戸 23	a 2,340.4	戸 825	a 13,630.4
農 業 者 以 外	会 社	7	10.6	4	51.3	0	0.0	2	109.5	2	434.0	15	605.4
	組 合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	地方公 共団体	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	27.0	1	187.0	0	0.0	2	214.0
	小 計	7	10.6	4	51.3	1	27.0	3	296.5	2	434.0	17	819.4
合 計		344	680.7	247	2,710.8	124	2,894.2	102	5,389.7	25	2,774.4	842	14,449.8

◆ 需 要 動 向 調 査 結 果 ◆

緑化工事における緑化木（グラウンドカバーを含む）需要状況

愛知県では、1973年（昭和48年）から県内の緑化（造園）工事業者を対象に、緑化工事に使用した緑化木の仕入れ方法、用途などについて、毎年調査を実施しています。

2024年度調査の結果の概要は次のとおりです。

1 調査対象業者数等

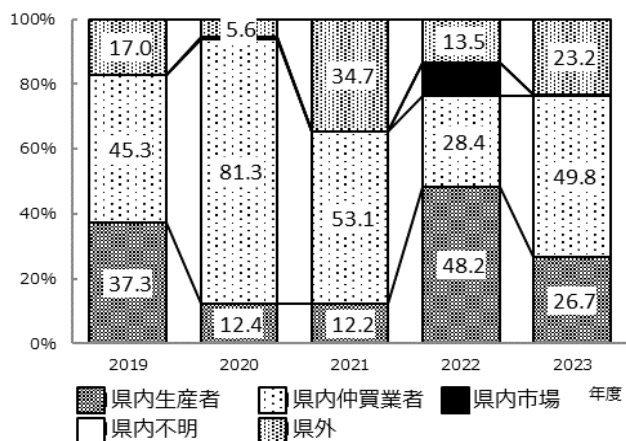
調査対象期間は2023年4月1日から2024年3月31日であり、県内の造園業者50者から回答を得て、集計しました。

2 緑化木の仕入内容（図－4）

仕入本数を県内と県外からに分けてみると、県内：県外＝77：23の比となっており、県内仕入れの割合が高くなっています。

仕入れ先別で最も多かったのは県内仲買業者で49.8%、次いで県内生産者26.7%です。

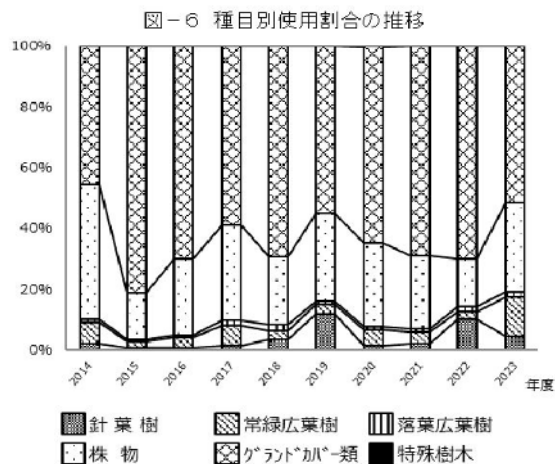
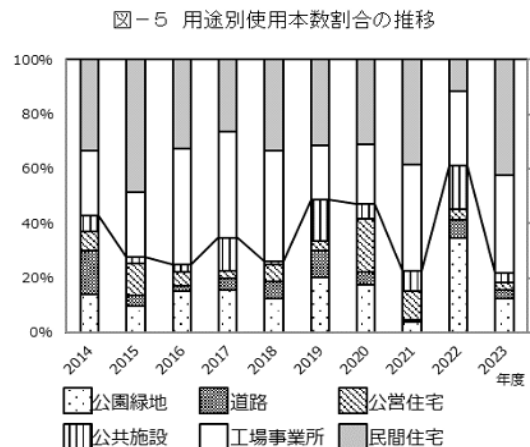
図－4 仕入先別の仕入割合の推移



3 県内緑化工事における緑化木の使用状況（図－5， 6）

県内の緑化工事における使用本数を公共工事と民間工事の使用本数の割合でみると公共工事：民間工事＝22：78となっています（図－5）。

種目別では「グランドカバー類」と「株物」が、それぞれ51.5%、29.3%となっており、この2種目で全体の80.8%を占めています（図－6）。



4 県内緑化工事における主な樹種の使用状況（表－2）

2023年度の使用本数割合は表－2のとおりであり、上位5樹種で全体の40.4%を占めています。

表2 樹種別の使用本数割合の推移

単位：%

年度 順位	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
1	ツツジ類 16.0	ジャノヒゲ類 47.3	ジャノヒゲ類 23.0	ジャノヒゲ類 10.9	ジャノヒゲ類 19.9	ヤブラン類 14.7	ジャノヒゲ類 19.5	ジャノヒゲ類 13.3	ヒベリカム類 17.8	ジャノヒゲ類 15.1
2	ジャノヒゲ類 15.1	ササ類 8.0	ツツジ類 8.9	ツツジ類 9.0	シバザクラ 14.5	ジャノヒゲ類 14.3	ツツジ類 8.0	ヤブラン類 9.1	ヘデラ類 10.8	ツツジ類 12.1
3	シバザクラ 6.3	ヤブラン類 7.7	ヘデラ類 7.9	ヘデラ類 6.3	ツツジ類 7.4	クロマツ 11.0	ヒベリカム類 7.6	ササ類 9.0	ジャノヒゲ類 8.9	サザンカ 7.3
4	ヒベリカム類 5.6	ツツジ類 6.0	ヤブラン類 6.7	ヤブラン類 6.1	ヤブラン類 6.6	ツツジ類 9.7	シバザクラ 6.1	ツツジ類 7.2	ヤブラン類 5.9	サツキ 3.4
5	ヤブラン類 4.5	シバザクラ 5.2	ヒベリカム類 3.9	サツキ 4.9	フッキソウ 3.5	フッキソウ 5.2	ヤブラン類 5.5	シバザクラ 5.9	ツツジ類 5.2	ヤブラン類 2.5
6	シャリンバイ 4.4	フッキソウ 3.3	ササ類 3.8	シバザクラ 4.5	シャリンバイ 3.5	シャリンバイ 3.6	クチナシ類 3.4	フッキソウ 4.6	フッキソウ 2.8	ヘデラ類 2.2
7	ボックスウッド 4.4	サツキ 1.7	サツキ 2.6	ヒベリカム類 4.0	ヘデラ類 3.2	ヘデラ類 2.8	ボックスウッド 2.7	サツキ 4.5	シバザクラ 1.4	モクセイ類 2.1
8	ユキヤナギ 2.4	シャリンバイ 1.6	シバザクラ 2.0	アベリア 2.3	ササ類 2.6	アベリア 2.5	ササ類 2.3	ヘデラ類 3.7	ボックスウッド 1.4	ヒベリカム類 1.9
9	サツキ 2.0	ヘデラ類 1.6	シャリンバイ 1.4	ボックスウッド 1.9	アベリア 2.4	サツキ 2.0	サツキ 1.9	アベリア 2.3	ユキヤナギ 1.3	クチナシ類 1.8
10	ヘデラ類 2.0	ヒベリカム類 1.5	ツツジ類 0.8	ササ類 1.8	クロマツ 2.1	クチナシ類 1.9	ヘデラ類 1.9	ボックスウッド 1.5	アベリア 1.1	クロマツ 1.7
上位10種 の割合	62.7	83.9	61.0	51.7	65.7	67.7	58.9	61.1	56.6	50.1

※網掛けはグランドカバー類

県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは、1986年から県内の植木市場（井堀・矢合・福地〔現在は廃止〕）において、主に地元から出荷される緑化木を中心に現在31品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。

今回は、2024年春期・秋期の取引量の概要を紹介します。

I 春期

1 全体取引量〔図－1〕

今期の全体取引量は約13.3万本で、前年同期（約15.0万本）から減少し、前年同期比は約89%となりました。全体取引量は2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年にはわずかな増加に転じたものの、再び減少傾向となり、今期も減少しました。

2 用途別の取引動向

一般植木の取引量は約4.9万本で、前年同期（約5.2万本）より約0.3万本減少しました。自然形ではカエデ類が多く、続いてシマトネリコ、キンモクセイ、ツバキで前年からカエデ、ツバキが減少し、シマトネリコ、キンモクセイが増加しました。仕立物ではクロマツが多く、続いてイヌマキ、イヌツゲでいずれも減少しました。

株・玉物の取引量は約6.7万本で、前年同期（約8.0万本）より約1.3万本減少しました。主要樹種はサツキで、オタフクナンテン、ツツジ類が続いています。生垣用樹は約1.7万本で、前年同期（約1.8万本）より約0.1万本減少しました。取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で全体の約84%の取引量となりました。

3 取引量上位の動き〔表－1〕

調査対象の取引量の上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めていましたが、今期はツツジ類にかわり、オタフクナンテンが順位を上げ、一方、サザンカが減少し、順位を下げました。

II 秋期

1 全体取引量〔図－2〕

今期の全体取引量は約7.8万本で、前年同期（約6.6万本）より約1.2万本増加しました。全体取引量は2008年以降減少傾向で、前期の取引量は2008年に比べると約25%まで減少しましたが、今期は若干持ち直しています。

2 用途別の取引動向

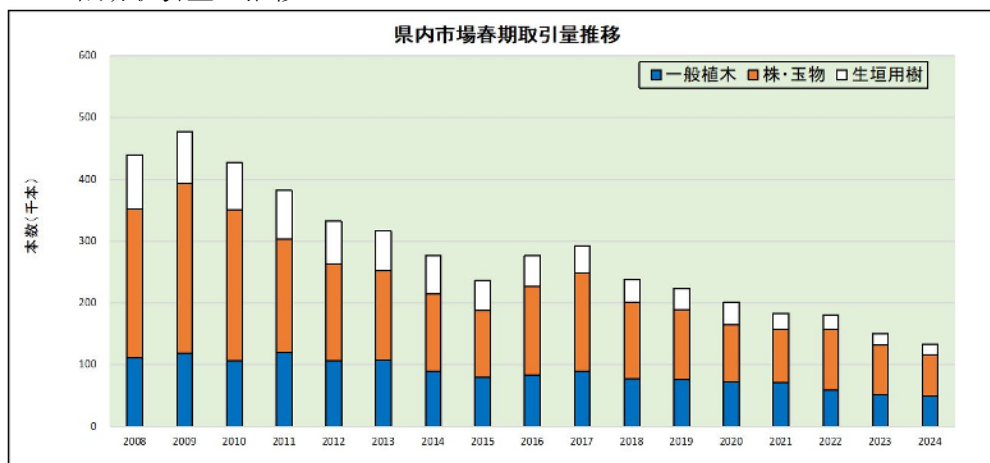
一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約3.2万本で、前年同期（約2.5万本）より約0.7万本増加しました。自然形では、シマトネリコ、カエデ類、ソヨゴ、キンモクセイが多く、前年からキンモクセイは減少しました。仕立物では、クロマツ、イヌツゲが増加したものの、イヌマキ、キャラボクの取引数量は低調のまです。

株・玉物の取引量は約3.2万本で、前年同期（約2.7万本）より0.5万本増加しました。株・玉物の大半を占めるサツキ、ドウダンツツジ、イヌツゲが増加し、ツツジ類が減少しました。生垣用樹の取引量は約1.4万本で、前年同期（約1.4万本）とほぼ同じ取引量でした。生垣の主要樹種であるサザンカ、マサキは前年より減少しましたが、イヌマキ、カイヅカイブキは大幅に増加しました。

3 取引量上位の動き〔表－2〕

調査対象の取引量の上位10品目では、オタフクナンテン、サツキ、サザンカが上位を占めており、シマトネリコ、カエデ類が続いています。サツキ、シマトネリコ、カエデ類の取扱量が前年より大幅に増加し、ソヨゴ、ドウダンツツジの取扱量も大幅に増加し順位を上げおり、全体的には増加傾向にあります。

図－１ 春期取引量の推移

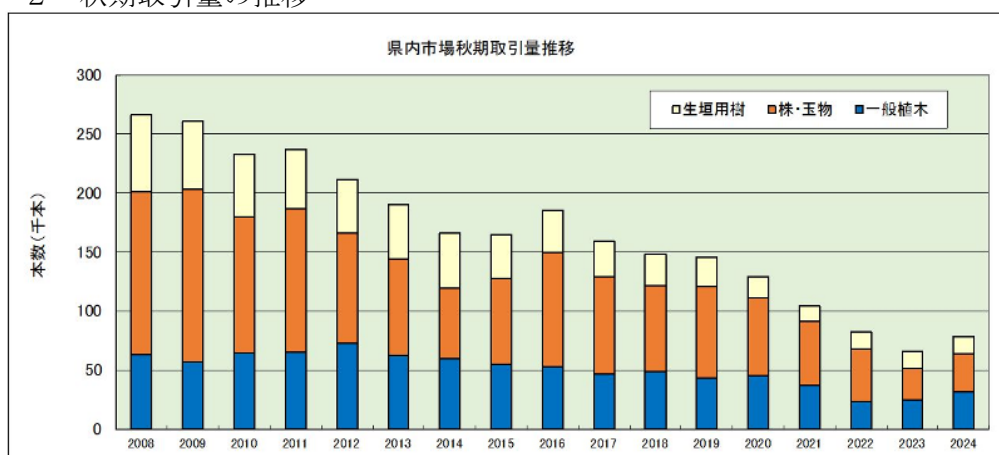


表－１ 春期取引量上位10品目の動き

順位	2022			2023			2024		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘	オタフクナンテン	株	...
3	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...	ツツジ類	株	...
4	サザンカ	生	...	カエデ類	一	...	カエデ類	一	...
5	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...	シマトネリコ	一	...
6	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘	ドウダンツツジ	株	↘
7	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...	イヌツゲ	株	↘
8	カエデ類	一	...	シマトネリコ	一	↓	サザンカ	生	↓
9	ツバキ	一	...	ヤマボウシ	一	...	イヌマキ	生	↓
10	イヌマキ	生	...	キンモクセイ	一	↑	キンモクセイ	一	...

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 一 : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

図－２ 秋期取引量の推移



表－２ 秋期取引量上位10品目の動き

順位	2022			2023			2024		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	...
2	オタフクナンテン	株	↘	サザンカ	生	...	サツキ	株	↗
3	サザンカ	生	...	サツキ	株	↓	サザンカ	生	...
4	ツツジ類	株	...	キンモクセイ	一	...	シマトネリコ	一	↑
5	キンモクセイ	一	...	カエデ類	一	...	カエデ類	一	↗
6	イヌツゲ	株	↑	ヤマボウシ	一	↑	ソヨゴ	一	↑
7	カエデ類	一	...	ツツジ類	株	↓	キンモクセイ	一	...
8	シマトネリコ	一	↓	イヌツゲ	株	↘	ドウダンツツジ	株	↑
9	ドウダンツツジ	株	↓	イヌマキ	生	↗	ヤマボウシ	一	...
10	イヌマキ	生	...	シマトネリコ	一	↘	イヌマキ	生	↗

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 一 : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和6年度は次の3課題に取り組みました。

- ・緑化木に発生する病虫害の実態についての調査（R4～R6）
- ・老齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について（R5～R7）
- ・移植が難しい樹種・時期等に対処する方法についての調査（R6～R8）

ここでは、令和6年度に終了した成果の概要を紹介します。

緑化木に発生する病虫害の実態についての調査

調査期間：令和4年度～令和6年度

1 調査目的

近年、都市部の公園や庭園等では多種多様の樹種が植栽されています。また、気候変動による病虫害の変化も推測されるため、当地方に発生する病気や害虫等を改めて実態調査することは、管理や防除対策に有効であります。

植木センターでは、2010～2012年に当地方で見られる代表的な病虫害の調査*を実施してその成果をまとめています。しかしながら、病気については調査が未解明の部分が多くあります。

そこで、樹木病虫害を3年間にわたり、植木センターを中心に、通年で調査を実施することにより、この地方の病害の実態（環境・立地条件と樹種との関係）を調査し、近年の病気の傾向を把握するとともに、診断や防除に役立てる情報をセンター報告やホームページ等で発信していくことを目的とします。

2 調査方法

（1）対象樹木

植木センター内に植栽されている緑化木

98科約500種（園芸品種もある）、約24,000本

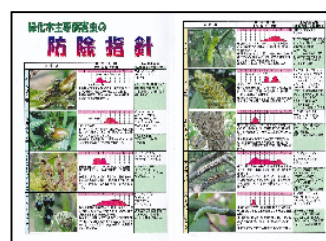
当地方で緑化木として生産・流通されている樹種

（2）対象病虫害

緑化木の生育を妨げたり、美観を損ねるなどの害を与える全ての病気、害虫等

（3）調査事項

- ・病虫害等が発生する樹種と症状
- ・病虫害等の生態（発生時期、形態、習性等）
- ・被害の形態、程度及び管理方法



植木センターの
公表済資料

3 年度別計画

項目／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1 病虫害実態調査	←		→
2 資料・情報収集	←		→
3 管理方法の検討		←	→
4 管理指針の作成			←

注)*「新樹種等に発生する病虫害の実態についての調査」(2010～2012)(植木センター報告No.12ほか、HPで公表)

4 調査結果

(1) 病虫害実態調査

4月から植木センター内の樹木に加害する害虫及び病気を調査

調査日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	9	8	6	4	7	5	9	4	3	2	1	2	60
R5	6	4	3	3	3	2	3	4	1	4	2	2	37
R6	1	6	1	3	1	3	1	2	—	—	—	—	18

調査日数 3カ年115日

害虫 181種 (確認種、不明なものもあり)

病気 33種 (確認種、不明なものもあり)

参考 (とりまとめ資料による)

害虫 280種 (H25.3まで)

306種 (R3.12まで (追補版))

325種 (R6.12まで (現在集計中))

病気 21種 (H25.3まで)

40種 (R6.12まで (現在集計中))

(2) 資料・情報収集調査

a 現地調査等

場内および随時

東三河 (ヤドリギ、クスベニヒラタカスミカメ?) の情報等あり、現地調査

尾張 (クビアカツヤカミキリ) の情報あり

b 資料調査等

最新の発刊された資料及びネット情報による確認と比較

今後、当地方で発生や流行の予想される病虫害等

・松枯れ病 (マツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウ)

・ナラ枯れ病 (カシノナガキクイムシ)

・クビアカツヤカミキリ

・ツヤハダゴマダラカミキリ

・オリーブアナアキゾウムシ

・クスベニヒラタカスミカメ

・その他緑化木に発生する病気

(3) 注目する病害虫

a キマダラカメムシ



越冬成虫 (R4.3.1)



産卵 (R5.5.11 径1.2mm) 孵化1.5mm



卵 (抜殻) と幼齢



卵 (抜殻) と幼齢



幼虫 (中齢)



成虫

b アミガサハゴロモ (ハゴロモの仲間)



幼虫



幼虫



成虫



秋から多く産卵



傷跡



アミガサハゴロモ

c その他



ツノロウムシ



ルビーロウムシ



クビアカツヤカミキリ

5 考察及び今後の予定

(1) 病虫害実態調査

害虫、病気の生態を継続調査した結果、従来の害虫、病気はかなり頻度が抑えられてきている。害虫については、キマダラカメムシやアミガサハゴロモ等、外来種やこの地方では見られなかった害虫が大発生する可能性があることがわかった。詳細については発生時期、害虫の特徴、被害の特徴、対策等をまとめた資料を作成する予定である。

一方、病気については従来のうどんこ病、すす病、赤星病等の発生例が多く、何年か継続する傾向である。当センターでは、多品種が植栽されているため農薬の効果が限定されていることも原因していると考えられる。特に菌類の病気については、樹種ごとに異なる病徴を表していて判別がつかないものも多かった。また、最近流行してきたコニファー類の枝枯のような原因が不明な病気も見られた。

病虫害については、病気が昆虫等に運ばれることも多く、害虫と病気を一体として、調査・観察する必要があると考えられた。また、今後も、気候の変化、流通の広域化により病虫害が多様化してきている実態を定期的に把握する必要があると感じられた。

(2) 今後の予定（普及資料の作成等）

最新版の病虫害検索ガイド、防除指針をホームページで改訂版を公表する予定です。なお、最新情報は、植木センターだより等で随時、情報発信します。

第 5 2 回 愛 知 県 緑 化 樹 木 共 進 会

愛知県緑化樹木共進会は、愛知県と愛知県緑化木生産者団体協議会の共催により、生産技術の向上、生産及び需要拡大を目的に、昭和 48 年度から毎年開催しています。

令和 6 年度は仕立物の部、自然形の部、生垣用樹の部、コンテナの部及び育苗ほ場の部の 5 部門で、県内の生産者から総数 168 点の応募があり、県農林水産事務所での予備審査を経た 78 点について本審査を実施しました。

本審査は審査員 7 名により行われ、令和 6 年 10 月 24 日の植木センターでの写真審査の後、11 月 14 日の現地審査を経て、農林水産大臣賞始め 17 賞の配賞を決定しました。

受賞者の表彰は、令和 7 年に開催される愛知県植樹祭の席上で行われます。

○農林水産大臣賞受賞作品の紹介

農林水産大臣賞受賞作品である「ユッカ・ロストラータ」は、放射状に広がる尖った緑の葉とゴツゴツした幹が人目を引く樹種で、耐暑性、耐寒性に優れ、乾燥にも強く成長が遅いため、庭木やシンボルツリーとして近年人気があります。

大谷さんは 56 歳で会社員を退職した後に緑化木の生産を始め、令和 6 年 11 月現在で 86 歳です。ユッカ・ロストラータの生産は 5、6 年前から後の流行を予測して始めました。

審査では、流行を予測した樹種を一早く取り入れ、また、管理を適正に行い、病虫害被害や葉焼けも少ないことが高く評価されました。



〈受賞作品のユッカ・ロストラータと
生産者の大谷正司さん〉

○出品部門

※（ ）内は応募数、応募総数 168 点

- ・仕立物の部：自然に育つ姿形から庭園用に整った形に仕立てたもの（23 点）
- ・自然形の部：樹種固有の形を目標として育てたもの（71 点）
- ・生垣用樹の部：生垣用に育てたもの（18 点）
- ・コンテナの部：コンテナで栽培したもの（53 点）
- ・育苗ほ場の部：苗木生産のほ場（3 点）

入 賞 作 品 一 覧

賞 名	部 門	樹 種 名	住 所	氏 名
農林水産大臣賞	自然形	ユッカ・ロストラータ	稲沢市	大谷正司
農林水産省農産局長賞	生垣用樹	オリーブ	西尾市	石川明
林野庁長官賞	コンテナ	マホニア・コンフューサ	豊橋市	黒田晴彦
東海農政局長賞	生垣用樹	マサキ	稲沢市	荻須隆裕
中部森林管理局長賞	自然形	レプトスペルマム・ シルバーティーツリー	稲沢市	水野博邦
愛知県知事賞	仕立物	ヤツフサゴヨウマツ	稲沢市	石野孝行
愛知県議会議長賞	コンテナ	クロマツ	豊橋市	森田恵子
愛知県緑化木生産者団体協議会会長賞	コンテナ	ツバキ(天津 ^{あまつ} 乙女 ^{おとめ})	豊田市	前田和昭
	自然形	ギンバイカ	稲沢市	水野秀樹
	仕立物	イヌマキ	稲沢市	水野隆史
	生垣用樹	モチノキ	稲沢市	津坂敏明
	コンテナ	フィリツワブキ	西尾市	磯貝正人
	仕立物	カクバマキ	西尾市	三治勝裕
(一社)日本植木協会会長賞	コンテナ	メラレウカ・アルテルフォリア	稲沢市	石田剛士
(公社)愛知県緑化推進委員会会長賞	生垣用樹	ラカンマキ	西尾市	黒柳英樹
愛知県経済農業協同組合連合会会長賞	コンテナ	コルジリネ・オーストラリス・ レッドスター	稲沢市	石田健太
(一社)愛知県造園建設業協会会長賞	自然形	シマトネリコ	西尾市	朝岡直紀

緑化木情報 No. 58

2025年3月発行

発行 愛知県農林基盤局
林務部森林保全課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電 話 052-961-2111(代表)

内線 3768、3769

052-954-6453(直通)

FAX 052-954-6937